

# 分娩時の母児安全管理に関する研究

北里大学医学部産婦人科学教室

長内国臣 西島正博

## 研究目的

周産期管理に関する母児環境的研究のうち分娩時の母児安全管理に関する研究を主体とする。

この方面の最近の研究は急速に進歩し、資料も膨大なものとなっているが、逆に整理がつかず混乱の多い分野でもある。したがって学問的な統一見解の最も要望される分野と考えられる。

具体的には分娩時の母児安全管理に関して産科麻酔の安全対策について検討する。すなわち次の如き項目について検討したい。

### A 麻酔が必要な対象

- 1) 心疾患、子癇（妊娠中毒症）
- 2) 希望者

### B 麻酔前後の管理

- 1) 絶食
- 2) 前投薬（硫酸アトロピン）
- 3) 輸液と酸素

### C 合併症の麻酔選択

- 1) 内科合併症
  - a) 心疾患
  - b) 高血圧
  - c) 喘息
  - d) 肺疾患
- 2) 産科合併症
  - a) 子癇
  - b) 鉗子分娩
  - c) 胎盤稽留（用手剝離）
  - d) 会陰裂傷

### D 麻酔合併症の対策

- 1) 誤嚥

### E 帝王切開時麻酔の選択

- 1) 予定帝王切
- 2) 緊急帝王切

特にこれら諸項目のうちC合併症の麻酔選択とその安全対策を主眼とする。

## 研究方法

まず産科麻酔についての全国的なアンケート調査を行ない日本での現状を分析する。その内容は概略次の如くとする。（詳細は別紙参照）

- 1) 分娩時麻酔を行なっているか否かとその程度および経験例数
- 2) 分娩第1期に用いる薬剤
- 3) 分娩第2期に用いる麻酔方法とその使用薬剤
- 4) 分娩第3期の管理
- 5) 出生直後の新生児仮死の管理
- 6) 分娩時麻酔の開始時期
- 7) 陣痛室、分娩室の構成
- 8) 分娩麻酔によると思われる母児への影響
- 9) 分娩監視の方法と利用度
- 10) 分娩時麻酔管理上の禁飲食と静脈確保について
- 11) 計画分娩の併用による管理について

上記の全国的な分娩時麻酔についての現状と同時にわれわれの分娩時麻酔の現状も加えて分析、検討を加える。

前記の主たる合併症のある分娩の麻酔管理にとどまらず、さらに広範囲にわたるHigh Risk分娩の検討を得て、それらの産科麻酔の安全対策をも追求したい。

## 研究結果

前記産科麻酔に関する全国的なアンケート調査として日本産婦人科学会および無痛分娩研究会より無差別に1,000人を抽出し、別紙の如きアンケート調査用紙を発送完了した。このアンケート調査の回収率は40%以上となり今までわれわれの行なった同様の調査の中でも良好な回収率である。

現在これら回収結果を今回の研究目的の観点から種々検討中である。

# 昭和52年度第5回無痛分娩全国調査

アンケート 必要な部分に○をつけて下さい

- 無痛分娩を（施行している）（施行していない）
- 無痛分娩は（全例に）（希望者のみ）（ときどき） 施行している。
- 分娩第1期に用いる薬剤は
  - 内服薬：ラボナ錠、アイソナール錠、ネルボン錠、ベンザリンセラン、ホリゾン、パルワン、アリナミン、グレルラン錠、セチス錠、タロムプロマジン錠、アスコパン錠、ノアロン錠、ピレキア錠、その他（ ）
  - 注射薬：オピオスタイン、ベチロルブアミン、セランジン、ホリゾン錠、グレルラン錠、ノアロン錠、タロムプロマジン錠、ピレキア錠、カクテリン錠、ヘルカミン錠、スコラミン錠、アスコパン錠、セタラール、ベンタジン、ソセゴン、ドロペリドール、その他（ ）
  - 吸入麻酔剤：トリクロロエチレン、笑気、ベントレンフロセ、その他（ ）
  - その他、硬膜外麻酔のキシロカイン、カルボカインなど（ ）
- 分娩第2期の麻酔法
  - 吸入麻酔 b. 硬膜外麻酔 c. 静脈麻酔 d. 硬膜外麻酔 e. 精神予防法 f. サドルロック g. その他（ ）
  - ベントレン b. フロセ、笑気 d. トリクロロエチレン e. サイクロプロペレン f. その他（ ）
- 硬膜外麻酔プロシク剤：
  - キシロカイン b. プロカイン c. エゾロカイン d. カルボカイン e. オスモカイン f. チチネスト g. マーカイン h. その他（ ）
- 静脈麻酔剤：
  - ラボナール b. イソゾール c. ミンダール d. チオバル b. アイナール f. キンアラール g. エゴントール h. クタカール i. その他（ ）
- サドルロックの薬剤
  - ベルカミン S b. サドルカミン c. キシロカイン d. 高比重ベルカミン e. その他（ ）
- 硬膜外麻酔の方法
  - 1回法 b. 連続法
- 硬膜外麻酔の部位
  - 仙骨部 b. 腰部 c. 仙腰骨用
- 硬膜外麻酔の薬剤
  - キシロカイン b. カルボカイン c. チチネスト d. オスモカイン e. マーカイン f. その他（ ）
- 分娩第3期に用いる薬剤
  - メチルゲン b. オキシメトリン c. スパチーム d. エルメトリン e. アトニオンSSX10 f. パルタン g. アトニオン b. チリピン 1. その他（ ）
- 新生児誕生に用いる薬剤
  - テラナチン b. 酸素 c. アトムリン d. ビタカン e. レスビゲン f. ロルブアミン g. エポチール h. ロベリン 1. 補薬 j. 重曹 k. その他（ ）
- 分娩台について
  - 普通の分娩台
    - 下腹が固定できる（ ）
    - 上腹が固定できる（ ）
  - 内診台式
    - 四股が固定できる（ ）
    - Fowler's体位がとれるもの（ ）
    - 麻酔以外の方法（精神予防性、バリ、） 施行している（ ）
- 麻酔開始の時期
  - 産褥が著しくなったら（ ）
  - 児娩出の開始に（ ）
  - 子宮口（ ）が開いたら（ ）
  - 陣痛が（ ）分位になったら（ ）
- Labour roomの設置
  - 別室で代用する（ ）
  - 用いる（ ）
- Recovery roomの設置
  - 別室で代用する（ ）
  - 用いる（ ）
- 希望者以外の理由で行なえなかったケース
  - あり（ ）
  - なし（ ）
- 行なえなかった原因
  - 21. 無痛分娩による麻酔死とされる懸念
    - 母（ ）例
    - 新生児（ ）例
    - 胎児（ ）例
  - 22. 新生児の低死の原因
    - 増加しない（ ）
    - 変わらない（ ）
    - 増加する（ ）
  - 23. 出血量の増減
    - 増加しない（ ）
    - 変わらない（ ）
    - 増加する（ ）
  - 24. 分娩時間の遅延
    - 遅延しない（ ）
    - 変わらない（ ）
    - 遅延する（ ）
  - 25. 分娩時のショック
    - 増加しない（ ）
    - 変わらない（ ）
    - 増加する（ ）
  - 26. 無痛分娩を行った回数
    - 例（ ）
- 有効薬
  - （ ）単位
- 一番多く行っている方法
  - 分娩第1期（ ）
  - 分娩第2期（ ）
- 無痛分娩時の失敗談
  - 30. 新生児低死をよこしめい薬物・方法がありましたら（ ）
  - 31. 新生児低死発生法
    - a. 薬剤（ ）
    - b. 皮膚刺激（ ）
    - c. 用手人口呼吸（ ）
    - d. 気道吸引（ポンプによる）（ ）
    - e. Mouth to mouth（ ）
    - f. 湯煎器具（製品名）（ ）
    - g. 湯煎器具（製品名）（ ）
    - h. 高熱療法（ ）
  - 32. 分娩監視装置を備えていますか・いない（ ）
  - 33. その装置内容
    - 外側法（ ）
    - 内側法（ ）
    - 内・外側法（ ）
    - その他（ ）
  - 34. その装置を無痛分娩例に用いる程度は
    - 全例に（ ）
    - 必要例に（ ）
    - ときどき（ ）
    - 用いない（ ）
  - 35. 準備開始後の実施
    - している（ ）
    - していない（ ）
  - 36. 無痛分娩例に胎児確保の点検は
    - 全例に（ ）
    - 必要例に（ ）
    - ときどき（ ）
    - 行わない（ ）
  - 37. 無痛分娩と計画分娩の併用
    - 全例に（ ）
    - 必要例に（ ）
    - ときどき（ ）
    - 行わない（ ）
  - 38. その併用方法
    - タミナリア錠 アジメチリン ナロリンタル 人工産膜 オキシメトリン点検 プロスタグランジン その他（ ）
  - 39. 無痛分娩に対する意見・将来に対する意見
- ご住所（ ）
  - 診療施設のご名称（ ）

\* ご協力ありがとうございました。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

#### 研究目的

周産期管理に関する母児環境的研究のうち分娩時の母児安全管理に関する研究を主体とする。

この方面の最近の研究は急速に進歩し、資料も膨大なものとなっているが、逆に整理がつかず混乱の多い分野でもある。したがって学問的な統一見解の最も要望される分野と考えられる。